

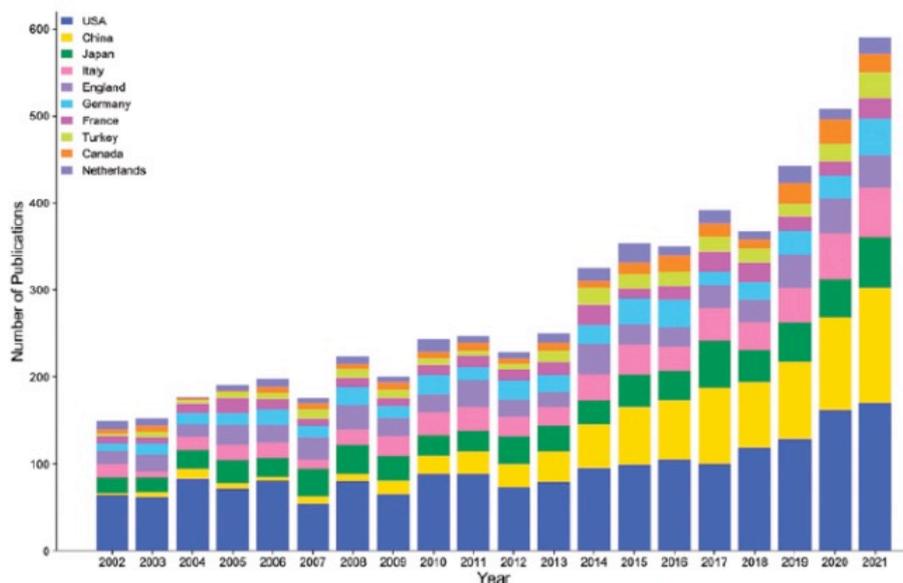
## 2024/2/28 重症筋無力症の研究動向

2002年から2021年に重症筋無力症（myasthenia gravis, MG）に関する英文論文6,734編を調査した研究があります（Yang J et al. *Medicine* 102: 24, 2023）。世界107カ国、24,024人の著者の中で、私、鈴木重明は10位にランクインされました。

The top 10 authors in the number of publications.

Rank	Author	Counts (%)	Average citation per item	H-index	Countries/regions
1	Vincent A	112 (1.66%)	60.44	43	England
2	Berrih-aknin S	78 (1.16%)	44.79	34	France
3	Evoli A	78 (1.16%)	60.29	34	Italy
4	Mantegazza R	78 (1.16%)	34.65	29	Italy
5	Gilhus NE	73 (1.08%)	61.60	35	Norway
6	Kaminski HJ	60 (0.89%)	41.12	23	USA
7	Sanders DB	56 (0.83%)	71.29	35	USA
8	Bril V	54 (0.80%)	29.26	20	Canada
9	Marx A	54 (0.80%)	49.19	25	Germany
10	Suzuki S	53 (0.79%)	26.94	19	Japan

これまで慶應義塾大学神経内科で多くの若手医師にMGの臨床研究に加わっていただき、論文を発表していただいたおかげです。あらためて先生方に感謝申し上げます。病棟で多くの難治性MG患者さまの治療を担当することで臨床経験を積むだけでなく、様々な問題点を提起し、臨床研究という形で解決していただきました。MGを専門としない先生であっても、MGの臨床研究を経験することで、倫理的配慮、データ分析、統計解析、論文執筆、共著者とのコミュニケーションなどを学んでいただけたと思います。



国別の比較では、日本は米国、中国に次いで3番目の論文数を20年間維持しています。総合花巻病院、檜沢公明先生を中心に活動しているJapan MG Registryの貢献が大きいと思います。我々の研究成果である、QOLを重視した軽微症状かつステロイド5mg/日以下（MM-5mg）を目標とする治療戦略

は日本のガイドラインは勿論，欧米の MG 治療にも大きな影響を与え続けています。

著者トップ 10 の中でトップ 3 と 8 位の 4 名は女性の研究者です。世界の神経内科は女性医師が活躍できる領域であり，ジェンダーバイアスはありません。慶應義塾大学神経内科のスタッフ一同，ジェンダーを問わず個人の価値観に基づくキャリアを形成できる環境を準備し，若い先生方の入局をお待ちしております。

(文責：鈴木重明)